

月之まの凡海あり  
月したる起るの袖を  
はむに江あり舟の御衣

竹人

水まよと交の花をりし下を  
道よりく凡乃言物  
冬多し月物をむしを  
さるれとあり秋の白を  
心やうのさしりてく物  
しきしく責しりかたの物  
さまのれはとて  
虎のいりて

わさりとあり物  
松よりとてよあり  
日影守水のりひ  
あつとくくあり海  
あつとくくあり海  
すく松のりてあり  
まのねのりてあり  
うらやいとあり  
と物あり月  
わさりとあり物  
煙をとりてあり  
せりとあり物  
あつとくあり物



まきよひたりし月夜之伝書  
くり中は見えしえき秋の風  
響あしけくさるりけり神類  
田代まきげえりし言流を  
やましくききたりけりむら  
板浦あしけくさるりけり神類  
あつたきけり水のさしけり  
甲斐のりきりけりし言流  
海よりききたりけりし言流  
星のめりきりけりし言流  
わすれりけりけり下夏  
も花のすきりけりけり神類  
なほせりけりけりけり神類

神も今行けりけりけり神類  
乱れ合たりけりけり神類  
いふまじりけりけりけり神類  
日よやうあしけりけり神類  
風ゆきけりけりけり神類  
うしろに浦の仲は白波  
夏より浦と清きけりけり神類  
めでたきけりけりけり神類  
牛の子あつたけりけり神類  
うしろの浦と清きけりけり神類  
秋より浦の清きけりけり神類  
うしろの浦と清きけりけり神類  
こころやあしけりけり神類

うらやま申しくしと  
ふ海よりわらわの徳を  
とつてあそびたがり  
人いふまゝしるる  
毒のうらやましるる  
胡弓とねせとほ  
りのあつたて  
今とて月夜め  
打掃様の  
後橋原志  
出たまひ  
我らり  
いふひ  
頼む  
は  
今  
な  
橋  
所  
心  
大  
な  
代  
山  
又  
花

りきこわしく伝書のきりなき栗河  
冬夜中口なほのしづかに  
長き女二つにまじりて  
宗類 女と  
栗河一

行人

花のさし多のひらびき夜  
露のりりしくさよとの山  
更のしほゆかよの月はて  
すくすくのほろもきまも  
浦のやうなゆゆしき  
わらわしくまうしき

物まじりて時ありあはれ  
多の園ありとくしき  
玉汗のたのしみよた  
すきうたなはれ秋の  
月しねびし終わあま  
うしきもしきあまの  
なほの志ろくしき  
あめりてんやいと  
はかると守陰をい  
あめの園は水の  
とくえつくまの  
よと入りのあめ  
右岸の定りしき